

同志社大学

2015年度 個人研究費研究経過・成果報告書

2016年 3月 14日提出

| 所 属 | 職 名 | 氏 名 |
|------------------|--|------|
| 政策学部 | 教授 | 足立光生 |
| 研 究 題 目 | 民間企業の ROE 経営が企業価値、資本市場の質に及ぼす影響 | |
| 研 究 成 果 の 概 要 | <p>上記について研究を行うとともに、今年度の成果として、以下の単著論文1篇ならびに講演2本（一つは講演後に対談も付随）を行った。</p> <p>①単著の論文 足立光生「空売り規制見直しと株式市場への影響」同志社政策科学研究第17巻（第2号）</p> <p>②講演（1）足立光生「デリバティブ商品の構造とプライシング」大阪証券問題研究会（2016年1月14日報告）</p> <p>③講演（2）足立光生「デリバティブ—その仕組みとプライシングの直感的理解」全国証券問題研究会（2016年3月11日報告）また、講演に引き続いて「対談・デリバティブ」を弁護士・中嶋弘氏と行った。</p> <p>これらについて解説する。</p> <p>①については旧来から研究している研究成果をまとめたものである。2013年3月、金融庁は株式市場における従来の空売り規制を見直し、同年11月より新しい空売り規制を施行することを発表した。空売り規制が株式市場に与える影響についてはMiller(1977)以降学界で幾重にも議論されてきたことであるが、現実の株式市場における空売り規制見直しのインパクトについては依然として未知数であり、今回の事例に関しては注目すべき事例と考えられる。本稿では空売り規制見直し発表、そして実際の施行に着目し、様々な角度からの検証を行う。本稿が特に着目するのが、今回の空売り規制見直しが投資家の資産保有行動にどのような影響を与えるかについてである。こうした影響の一部については業種別株価指数の関係性の変化 VAR モデルを用いることで、その一部を検証した。</p> <p>②と③については、2000年代中期より中小企業等を対象としたデリバティブ商品について解説するものである。このような法人向け商品については、投資家にとって購入時の損得の判断が難しい商品が数多く存在する。そこで、投資家が商品の真の価値を理解するために購入時における時価開示が望ましいものの、時価を一意に確定するためには様々な前提が必要であり、販売者サイドと投資家との間で同意すべき事項が存在する。これらに関してプライシングという視点から講演を行った。</p> | |